

# 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員 1	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	4
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>5 年間の関係者の努力により、わが国の遺伝カウンセラー養成のための理想的な修士課程教育カリキュラムが完成したと考える。魅力的な教育プログラムを示すことにより、有能な多くの学生が受験し、合格した者は、この教育課程を経て、有能な認定遺伝カウンセラーとして社会に巣立っている。その進出分野は多彩で、いかに社会がこの領域の専門家を求めているかわかる。唯一の懸念であった、本教育課程の継続性についても、大学の了解が得られ、恒久的に実施できるようになったことは大変喜ばしい。今後とも、わが国における認定遺伝カウンセラー、コーディネータ教育のトップリーダーとして継続発展することを強く希望する。</p>	<p>知識レベルの教育については、京都大学との合同講義の実施により、十分なレベルに達している。一方、遺伝カウンセリング実習を遠隔地の他施設で行わなければならないが、時間的・経済的負担が大きいと考えられるが、次年度以降も工夫を重ねることにより、充実した実習が継続されることを希望する。遺伝カウンセラー養成に関係する教員による会合を定期的に開催することも個々の学生の学習進行状況を把握するために役立つのではないかと考える。受験希望者の増加と就職先の確保については、一層の努力が必要であり、いち早く開始された卒後研修センターの活発な活動が期待される。本プログラムの継続性については、すでに大学としての位置づけが明確になされており、わが国の認定遺伝カウンセラー教育全体にとって、大きな意味がある。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

# 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員 1	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	京都大学と近畿大学が密に連携し、充実した実施体制がとられている。京都大学において、毎週教員会議を開催し、具体的項目について教員相互の共通認識を促していることは高く評価できる。
養成手法の妥当性	5	認定遺伝カウンセラーを養成するためには遺伝医学はもちろんのこと生命科学、基礎遺伝学、臨床医学、心理学、カウンセリング学、生命倫理学などについての広範な知識と技能を身に付けた上で実際の遺伝カウンセリングの場に同席する実習を行なうことが求められる。本ユニットはこれらの教育すべき内容を網羅しており養成手法として極めて妥当である。
人材養成の有効性	5	遺伝カウンセリングの二つの要素、すなわち情報提供と心理支援の両者を同時にバランスよく行なう人材を養成することのできる極めて充実した教育プログラムが用意されている。
継続性・発展性	5	わが国に欠けている遺伝医療の中核を担う「認定遺伝カウンセラー」を継続的に輩出する本ユニットの役割は大きい。JST 終了後の体制の構築について、京都大学、近畿大学ともに大学内で正式な組織作りがなされ、さらに継続・発展できる環境が整えられている。
進捗状況	5	修了生は適切な職場に就職あるいは大学院に進学しており、本プログラムは、広く社会で求められている人材を輩出していると考えられる。わが国の認定遺伝カウンセラー、コーディネータ教育のトップリーダーとして継続発展し続けること、および世に送り出した修了生へのサポート体制を構築することが今後の新たな課題である。

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員2	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	4
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>全体的に非常に高く評価される。とくに教員・学生の志気・意欲が高く、同様の養成コースの先駆的モデルとなっている。課題研究は学生の問題解決力を増すために導入していて、大きな成果を上げているが、専門職大学院としての位置づけでなので、学生への過重負担にならないように配慮されることが望まれる。</p>	<p>全体的に高く評価される。開設時の学内事情からか、養成コースが理工学研究科理学専攻の一部となっていることからやむを得ないことではあるが、実習など臨床面でのカリキュラムをより充実する必要があるかもしれない。またカリキュラム上、担当教員の専門性を重視しすぎているかも知れない。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員2	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	JST 支援を基盤とした過去 5 年間における計画が確実に実施されたことは高く評価される。
養成手法の妥当性	5	養成手法は後続大学におけるカウンセラー養成コースのモデルとなっている。とりわけユニットの構成要素である 2 大学の独自性を保持しつつ、その連携による実施の困難さを克服したことも高く評価される。
人材養成の有効性	4	カウンセラー養成の有効性は、その社会的需要の尺度いわゆる就職先の数で判断したとき、未だ十分とは言えない。これは、遺伝カウンセリングに関する医療行政上の問題が底辺に存在するために、養成機関だけの努力では解決できず、また関連学会の医療への啓発などの努力も必要であろう。
継続性・発展性	5	JST からの支援が終了するので、経費および教員等の人的資源の活用は縮小しても、養成・教育のミッションは保持しつつ継続する計画は高く評価される。平成 22 年度の受験者も多くいわゆる入り口論的には需要があるが、出口の一部が博士課程への進学があり、入り口と出口の社会的需要にギャップがあるように思われ、これが解決しないと大きな発展性は望めないかもしれない。
進捗状況	5	過去 5 年間の実績と現在までの進捗状況はおおいに評価できる。

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員3	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	4
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>カリキュラム、授業・演習・実習、教材作成など 5 年間で教育体制、プログラムは完成したように思われる。特に合同プログラムは京大・近大の教育効果を相乗的に高めている。結論として費用対効果が十分に認められ、総合的な支援専門職としての認定遺伝カウンセラー、臨床研究コーディネータの養成は順調に行われたと評価したい。</p> <p>振興調整費によるプログラム終了後も、京大独自の人材養成が継続できるようで喜ばしい。わが国の認定遺伝カウンセラー・臨床コーディネータ養成にとってもリーダー的存在として期待したい。</p>	<p>近畿大学のプログラムも 5 年間でほぼ完成した感がある。実習面の弱点も徐々にではあるが着実に改善されている。ただ実習施設が遠隔地である点はやむをえないか。卒後研修センターの機能が充実してきており、特に自校以外の院生及び修了生にも門戸を開放している意義は大きい。</p> <p>調整費によるプログラム終了後もほぼ同じ規模で人材養成が継続される意義は大きい。京都大学との合同プログラムの継続も評価できる。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員3	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	両大学の密な連携の下しっかりした計画でプログラムは実施されている。また、定期的なスタッフ会議や学生の授業評価の適切なりレビューにより教育の改善に常に取り組んでいるのは評価できる。
養成手法の妥当性	5	養成手法は知識・技能・態度にバランスよく配慮され、理想的なものに仕上がっており極めて妥当と判断される。
人材養成の有効性	5	修了生のほとんどが遺伝関連の分野で活躍しており人材養成の有効性は極めて高いと判断される。
継続性・発展性	5	人材養成は継続されなければ意味がない。両大学とも文科省振興調整プログラム終了後も、規模を除けばほぼ同等の養成が続く見込みで喜ばしい限りである。今後は大学独自の発展性にも期待したい。
進捗状況	5	5 年間の両大学関係者各位の熱意と努力、さらにそれに応えて勉学に勤しんだ院生たちの努力と成果で所期の目的はほぼ達成されたといえる。今後はこれらの成果を土台に遺伝関連職種の養成と遺伝医療の発展・普及にわが国のリーダーとして直一層努力されることを期待している。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会（平成 22 年 2 月 20 日）

### 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員4	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント（自由記載）	2年間という短い期間で遺伝カウンセラーを養成するために5年間にわたる試行錯誤の結果、理想的なカリキュラムを作成した関係者の努力を高く評価したい。特に指導者養成という観点から博士研究につながる教育をおこなった京大関係者の努力と成果を評価したい。	理工学部という背景をもとに京大と連携して遺伝カウンセラー養成のための優れたカリキュラムを完成させた関係者の努力と成果を評価したい。特に卒業生のスキルアップシステム構築や、染色体・遺伝子解析実習など、独自の教育を開発し、京大のプログラムにも多大な貢献をしたことも評価したい。

評価：5（とても良い）、4（良い）、3（どちらともいえない）、2（あまりよくない）、1（よくない）

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会（平成 22 年 2 月 20 日）

### ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員4	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	当初計画された内容以上の完成された教育システムを構築されたと評価できる。
養成手法の妥当性	5	2 大学の連携により教員・実習環境など理想的な養成システムを完成したと評価できる。
人材養成の有効性	5	現時点では卒業生を受け入れる社会的整備が迫っていないが、将来のわが国の医療に必須の人材を養成するシステムを構築したことは高く評価できる。
継続性・発展性	5	教育機関としての大学をめぐる昨今の状況にはきびしい現状があるが、そのなかで最大限の努力と成果をあげていることを評価したい。
進捗状況	5	毎年、新たな課題の解決に向かって努力されてきた結果、ほぼ理想的な人材養成カリキュラムの完成に近づいていると評価できる。

評価：5（とても良い）、4（良い）、3（どちらともいえない）、2（あまりよくない）、1（よくない）

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員5	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>それぞれの大学の特色を生かしながら、工夫を積み重ねてこられ、年を追う毎に充実してきたことが伺え、先生方のご努力に敬意を表します。</p> <p>一般の人が、自分の身体を知り、自分にとって一番良いと思える医療に出会え、選択できるような資料作りや、情報の提供の仕方にも配慮しながら、プログラムを進めてこられたことに感謝します。</p> <p>今までのプログラム内容の縮小を余儀なくされても、継続されることを願っています。</p>	

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員5	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	大変、吟味された計画と実施体制だと思います。
養成手法の妥当性	5	高度な学習内容をこなし、予定通りの認定カウンセラーを輩出できたことが、妥当性を物語っていると思います。
人材養成の有効性	5	遺伝についての研究は益々混沌としてきています。それゆえ、遺伝カウンセラーに要求されることは多くなっていくと考えられます。
継続性・発展性	5	カウンセラーが社会の中で根付くには、まだ時間がかかるとは思いますが、仕事として続けていくことで、少しずつ変わっていくと思います。とにかく、続ける事だと思います。
進捗状況	5	懸念されていた就職状況も、資格を生かす方向に進んでいるようですし、今後、経験を積み、しっかりと相談にのれるようなカウンセラーに成長していったほしいと思います。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員6	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
<b>カリキュラム</b>	綿密に練られたカリキュラム。 講演、実習、学会・セミナー等への参加も上手に組み込まれている。 シラバスの量も質も十分なもの。	綿密に練られたカリキュラム。 個々の单元ごとの、細かな到達度、理解度の評価もきちんとなされている。 シラバスの量も質も十分なもの。
<b>授業・演習等</b>	十分な量と質で実施されていると思われる。	同左
<b>実習等</b>	実習といっても、実施時期(期間)等からみて、実際には見学的な内容も含まれていると思われる。	実習の時間は十分確保されている。
<b>教材作成</b>	十分なものかどうかは確認できなかった。	同左
<b>合同プログラム</b>	両大学が必ずしも近接しているわけではないので、移動時間等を考えると十分とはいえないかもしれない。しかし、単位互換、合同カンファレンス等、合同のメリットを出そうとする努力は見られる。	同左
<b>総合評価</b>	あらゆる観点から見て、優れた教育が実施されていることが伺われる。 教員の熱意も感じられる。	量、質ともに優れた教育が実施されていることが伺われる。
<b>コメント (自由記載)</b>	CRC (CRP) 養成コースとの融合プログラムが有効かどうかは検証する必要があるだろう。	

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員6	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	きわめて緻密に丁寧に構成されたプログラム。 近隣の大学同士の交流プログラムの形になっていることもユニークで評価できる。
養成手法の妥当性	5	見学、実習等がバランスよく組み合わされている。
人材養成の有効性	4	全国レベルで見たときに、この職種の必要数はそれほど多くはないと思われるが、個々の患者・家族の要求水準は非常に高いと思われる。そうした要求に応えうる内容だと思う。
継続性・発展性	4	JST のプログラムが終了し、一方で大学全体の定員や予算が限定される中で、多少の不安が残る。 ただし、このプログラムに関与している方の熱意は高いと思われるので、何とか打開していかれるものと期待する。
進捗状況	4	予定通り進捗している。

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員 7	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>社会健康医学専攻の中に設けられた遺伝カウンセラーコースと臨床研究コーディネータプログラムの相乗効果をもたらした多領域をカバーする修了者を当初の目標を上回って輩出し 100%の進路を確保した実力に頭を垂れる。両コース共に教育陣容と財政面での縮減は逆らえないが、限りある人材と資金のもと継続的プログラムの改善を企図している姿勢は評価される・外部資金獲得の一層の尽力を期待する。</p>	<p>財政面を除いて 22 年以降も来し方に変わらず良質の教育プログラムは継続される。さらに京都大学との合同プログラムも継続されるようで心強い。医療に直接関係する専門職を養成していて京都大学医学部からの好意的支援をうけている近畿大学には同大の医学部の遺伝カウンセラー養成のための協力を求めたい。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

# 遺伝カウンセラー・コー ディネーターユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員7	
評価内容	評価	コメント
<b>計画・実施体制</b>	5	平成 17 年度に採択された科学技術振興調整費新興分野人材養成プログラムは平成 21 年度で終了となる。京都大学では遺伝カウンセラーコース・臨床研究コーディネータープログラムを大学院医学研究科・社会健康医学系専攻の中に設け、近畿大学では遺伝カウンセラー養成課程を総合理工学研究科・理学専攻の中に設け、それぞれ個性的な養成計画・実施体制は十全で、与える側受ける側が信じがたいエネルギーで事業を完遂した。
<b>養成手法の妥当性</b>	5	京都大学では社会健康医学系専攻のコア 1-5 領域のすべての領域を含む科目、医療系以外の出身者には基礎医学・臨床医学概論、コース限定を含むコース必修科目、加えて課題研究の履修がコース終了の要件とされ、近畿大学では理学専攻の生物・環境科学分野で開講されている特別研究を含む必修 15 科目および選択必修 1 科目の履修が終了の要件とされている。以上を基軸に両校間での合同カンファレンス・単位互換・相互評価、合同外部評価という他の養成施設では在り得ない合同プログラムが高い評価を得て遂行された。
<b>人材養成の有効性</b>	5	本邦の認定遺伝カウンセラー74 名に対し、米国のそれは 2448 名である。本邦の養成校は 7 大学(本年 4 月より 9 校)に対し、米国は 31 校である。認定遺伝カウンセラーが国家資格となり認知度が米国並みになれば認定遺伝カウンセラーの需要は著しくなると想定される。将来を見据えた本プログラムの人材養成は歴史が証明すると期待される。
<b>継続性・発展性</b>	5	JTS のプログラムは終了となるが、京都大学の遺伝カウンセラー・コーディネーターユニットは大学院医学研究科・社会健康医学系専攻に新設された「遺伝医療学分野」「臨床研究管理学分野」で継続される極めて喜ばしい。財政面での苦しさは否めないが研究科内の格段の配慮を期待する。近畿大学は恒常的な遺伝カウンセラー養成課程であるため継続性についてはプログラム終了は全く問題はない。しかし調整費の終了は京都大学同様財政面での負は学生の研修会。学会参加に影響すると推察される。当局の資金導入努力を奨励する。両校共に発展性の面での不安は皆無である。
<b>進捗状況</b>	5	京都大学の遺伝カウンセラーコース・臨床研究コーディネーターコース共 21 年終了時の養成人数の実績は数値目標を上回っている。養成者の進路について両コース共に 100%進路は決定している。近畿大学の 21 年終了時の養成人数の実績は数値目標を達成しているが、不況を反映してか 21 年度終了生のみ進路未定で現在就活中でと聞く。当初の目標は見事に達成され、進捗状況は極めて良好でありプログラムは見事に達成されたと評価する。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員8	
	京都大学評価	近畿大学評価
評価内容		
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	熱意にあふれた企画・運営 がなされており、遺伝カウンセラーと臨床研究プロフェッショナル(CRP)養成のモデル ができた感じがします。	本プログラムにかける大学の思いと熱意が伝わってきます。修了生の進路も順調に開拓でき ており、高く評価できるプログラムとして育っています。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員8	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	京都大学と近畿大学が協働して、充実した充実したプログラムを育てていることが高く評価できる。
養成手法の妥当性	5	遺伝カウンセラーと臨床研究コーディネーター(CRC)の養成に必要な講義と実習が組み立てられており、高く評価できる。遺伝カウンセラー養成コースに比して、CRC 養成コースは少ないスタッフがフル回転で頑張っている様子がうかがえる。
人材養成の有効性	5	卒業生の感想と卒業後の進路・進学状況から、人材養成も有効に進展していると評価できる。国内での遺伝カウンセラーと CRC 養成の立派なモデルが育っている。わが国の医療の世界で必要とされている領域の職種である。
継続性・発展性	4	今後は学内の組織として、更なる継続した運営と発展が期待される。
進捗状況	5	当初の計画に沿って、順調に成果を出しており、進捗状況は高く評価できる。

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員9	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	充実したカリキュラムで、効果的なプログラムが構築されたと思います。	年々より良い教育の提供を目指して尽力され、良いプログラムが構築されたと思います。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員9	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	熱意のある講師陣による綿密な計画により、専門職を養成する教育体制が構築されていたと思います。
養成手法の妥当性	5	講義、演習、実習をバランス良く取り入れており、当該分野における基本的な知識を与えるとともに、自ら考え問題を解決していく力や、他者と良好な関係を築くためのコミュニケーションスキルなど、当該分野の専門職に必要とされる能力を十分に身につけることのできるプログラムになっていると思います。
人材養成の有効性	5	<p>1 期生から 3 期生まで、専門職として就職できており、短期的には人材養成は成功したと評価できると思います。</p> <p>ただし、今後、本コースの修了生が当該分野において指導的役割を担うことができるようになってはじめて、本コースの有効性が証明されるのだと思います。</p>
継続性・発展性	4	<p>継続性については、近畿大学は問題ないと思いますが、京都大学は大変厳しい状況であったと理解しております。それでも尽力され、プログラムを継続できることになったことは評価に値すると思います。</p> <p>ただし、本プログラムを効果的に継続するためには、本プログラムを構築された当該分野の専門家(遺伝カウンセラー、臨床研究コーディネーター自身)による教育指導が必須です。そのため、コース自体は継続されるものの、本当に意義のある教育プログラムを継続できるのかどうかについては、若干疑問が残ります。</p> <p>本コースは、単なる遺伝カウンセラー、臨床研究コーディネーターを養成するだけでなく、その教育的、管理的立場に立つ人材を養成するコースとして機能し、ここで養成された人材が日本各地で専門職(遺伝カウンセラーや臨床研究コーディネーター)を養成していくことが期待されます。</p> <p>なお、本コースが成功を収めたのは、本コースの運営に尽力された先生方のご尽力の賜物であることから、先生方にご希望があれば、今後も継続して本教育プログラムの発展に寄与していただけるよう、引き続き教員の配置に努めていただければと思います。</p>
進捗状況	5	4 年間で当該分野における教育プログラムがほぼ完成されたと思います。上記しましたように、今後いかに継続していくかが重要だと考えます。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員10	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>緻密に練られたカリキュラムと教員の不断の努力により、JST の支援を最大限に生かしてユニットの発展に努められた。仕方のない事とは言え、人件費に予算を割いてきた為、特認教員の継続雇用が叶わず、今年度末を以て規模縮小を余儀なくされたのは断腸の極みである。</p>	<p>教員組織のチームワークで種々の困難を乗り越え、ユニットを発展させてきた功績は大きい。従前からの教員組織で臨めたため、予算を種々イベント開催などのソフト面や教育機器購入などハード面に割り振る事が出来たのは有効且つ幸いな事であった。十分にそれらを生かし切ってこられ、且つ今後も教育資産として残るのは素晴らしい事である。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 21 年度外部評価委員会(平成 22 年 2 月 20 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員10	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	いずれの大学院とも、自施設の特長を生かした個性ある計画を練られ、万全の実施体制で養成を遂行された。
養成手法の妥当性	5	ほぼ完璧に近いものと評価された。
人材養成の有効性	5	極めて有効であった。
継続性・発展性	5	教員に微塵の落ち度もないが、京都大学当局は当ユニットの重要性と継続性への理解は示しつつも、継続運営への目に見える形での支援は決断されなかった。JST も文部科学省もこの点を重く受け止め、科学技術振興調整費の本質は何なのか、新興人材養成とはどうあるべきなのか、今後にかす対応をご検討いただきたい。
進捗状況	5	人材養成という観点ではまだまだ道半ば、というより始まったばかりであり、今後の発展が求められる。両大学当局はその重要性に鑑み、適切な支援を行うことが求められる。

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)